

第11期事業報告

2014(平成26)年10月1日から2015(平成27)年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

I. 事業の成果

「モンゴル障がい児療育支援事業」については、4月～5月に専門家チームが4度目の訪問をして、昨年の実態調査の詳しい報告説明会と今後へ向けての啓発を行い、あわせて昨年の調査以降始まっている自主保育の現場を訪問、保護者の会のリーダーたちとの話し合いを行った。理学療法士は、昨年作成した家庭療育ガイドブックについてフォローアップセミナーを実施した。

車いすの支援については、専門家の協力により、あらかじめ現地でお子さんを採寸し、それをもとに身体に合った車いすを探し、付属品を誂えて一年後に現地を手渡した。あわせて新たに、車いすの付属品を現地で製作できるようにするためセミナーを開催した。

さらに新たな助成金を得ることができ初めての招へいプログラムを実施した。6月に保護者の会のリーダー10名を日本に招へいし、障がい児の早期発見、早期療育の仕組みなどを実際に視察する一週間の研修機会を設け、保護者の会の活動をエンパワーすることができた。

今後、モンゴルでの療育支援を継続的に展開するために、JICAの草の根技術協力事業に事業提案することを念頭に療育専門家からなる草の根チームが立ち上がり、5月の訪問中に現地を視察し、9月には5名が現地を訪問し準備のための話し合いを行い、JICAへの事業提案を作成した。

タイについては、北タイのNGOルデラ(ラフ農村開発)と協力し、北タイへのスタディツアー、高校生のスタディツアーコーディネートを継続実施した。初めてクラウドファンディングに取り組み、山の村で取り組んでいるアグロフォレストリーに必要な水道施設をつくるための資金を集めることができた。

財政面では、モンゴル障がい児療育支援事業に助成金を受領して事業をすすめてくることができたが、草の根技術協力事業以外のモンゴル支援については、国際協力財団のNPO助成金が3年間で終わるため、他の助成金もしくは資金調達が必要となる。

II. 事業の実施に関する事項

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者の範 囲及び人数	支出額 (千円)
1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業						
(1) モンゴル障がい児療育支援事業						
ア. 療育専門家の訪問(1)	医師、理学療法士、保健師、車いす技術者等の参加協力により9名のチームで訪問。2014年実施の実態調査報告会、診察、訓練指導、講義、セミナー、車いすの調整を実施。	4月27日 ～ 5月6日	モンゴル国 ウランバートル市内、障がい児保護者の会 他3か所	9人	障がい児医療従事者：約10人 障がい児・者と家族：約100人	1,264
イ. 保護者の会リーダー招へい研修	保護者の会リーダー10名を招へいして障がい児療育に関する研修を実施した。	6月15日 ～ 6月22日	東京都北区、板橋区、練馬区	9人	障がい児保護者の会リーダー10名	1,637
ウ. 車いす支援	車いす、バギー等を収集し、36台をモンゴルに運んで寄贈した。専門家訪問時に調整して手渡し、セミナーを実施した。	11月 ～ 5月	東京都板橋区、ウランバートル、	10人	モンゴル国の障がい児・者と家族：約100人	616
エ. 療育専門家の訪問(2)	医師、理学療法士、教育指導の専門家等5名が訪問し、JICA草の根技術協力事業のための調査、摂食指導の動画撮影を行った。	9月20日 ～ 9月27日	モンゴル国、ウランバートル市、障がい児保護者の会、他	6人	障がい児医療従事者：約10人 障がい児・者と家族：約100人	201
オ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわせてモンゴル音楽を聴いた。	7月3日	東京都新宿区	20人	一般市民：152人	214
カ. 支援事業の運営	モンゴル側窓口を依頼して、日本側事務局と連携して上記事業を実施、また現地協力者が自主保育の支援を実施した。	年間	モンゴル国ウランバートル市、東京都中央区	4人	障がい児・者と家族：約100人	736

2. 海外の障がい児・者等との交流事業						
(1)モンゴル、タイ等への研修・交流ツアーの企画実施						
ア. モンゴル交流ツアー	6月にモンゴルから招へいすることになり取りやめた。					0
イ. 北タイ・焼畑の村スタディツアー	北タイのラフ族の村に滞在し、森復活の取り組みに学び、村人と交流。	2月11日～ 2月18日	タイ、チェンマイ、チェンライ、	人	北タイラフ族等： 約100人	1,949
ウ. タイへの高校生スタディツアー	東京・順天高校のタイ修学旅行の北タイ滞在期間について、ツアーの企画・コーディネートを行った。	7月23日～ 8月1日	タイ、チェンライ、パヤオ、チェンマイ	5人	日本の高校生、教員：23人 タイの現地交流相手：約500人	2,098
3. 啓発事業						
(1)セミナー等の開催	モンゴルの障がい児保護者の会リーダーを迎えての公開フォーラム	6月20日	東京都練馬区	15人	一般市民：50人	52
4. 文化交流事業						
	実施なし					0
5. 情報提供事業						
	HP、ブログ等、ニュースレター等の発行により情報を発信。	随時	法人事務所	2人	一般市民： 不特定多数	0

Ⅲ. 事業の報告

1. 海外との協力事業

(1) モンゴル障がい者支援事業

ア. 療育専門家の訪問(1)

療育の各種専門家による訪問団がモンゴルを訪問し、保護者の会、医療関係者を対象に昨年実施した実態調査についての詳しい報告会を実施し、昨年来始まっている自主保育の現場を訪問、保護者の会のリーダーたちとの話し合いを行った。理学療法士は、昨年作成した家庭療育ガイドブックについてフォローアップセミナーを実施した。

車いすの支援については、昨年現地での採寸に基づいて収集し運んだ車いすに、誂えた付属品とともに障がい児に手渡すことができた。今回初めて、車いすの付属品を現地で製作するためのセミナーを開催した。

実施期間：2014年4月25日(金)～5月5日(月) 11日間

助 成：公益財団法人日本国際協力財団

訪 問 先：ウランバートル市内、障がい児保護者の会、国立リハビリテーションセンター、ゲゲーレン、サインナイズ、ソブド保育園、第10治療保育幼稚園、オユン議員、レフレックス病院、JICAモンゴル事務所

訪問団メンバー：9名

中島雅之輔（整形外科医・東京都北療育医療センター）

諸石真理子（理学療法士・通所&入所施設嘱託）

立川雪子（保健師・東京都練馬区石神井保健所）

山川邦子（理学療法士・東京都北療育医療センター）

野口陽子（元特別支援学校副校長 ニンジン理事）

今清水勝人（車いす技術者・(株)ゼット本社）

春日 宏（車いす技術者・(株)ゼット本社）

中島久子（中島医師夫人・記録）

槇ひさ恵（事務局）

現地協力：ダワーさん（現地調整・通訳）、

堤由貴子さん(OT)、金井伸子さん、ポーギーさん

(通訳)バヤラーさん、アンフバットさん、

主な内容：・実態調査報告会 保護者の会向け 23名(日本センター)

医療関係者向け 16名(国リハ)

・自主保育現場訪問

ゲゲーレン(摂食指導、座位保持イス1台寄贈)

サインナイズ(診察4名)

・その他の療育現場訪問 (エネルギー・チューナー)、

・ソブド保育園訪問(診察11名、摂食指導、パンダ椅子1台寄贈)

- ・諸石 PT によるガイドブックセミナー2 か所で実施
医療関係者向け 35 名(国リハ)、
保護者の会向け 12 名+お子さんたち(日本センター)
- ・保護者の会「お父さんクラブ」を対象に車いす製作セミナーを実施 11 名。
- ・車いすの調整・配布、採寸

成 果：・実態調査の報告書を何回も推敲したものをモンゴル語に翻訳し持参した。これを PPT にしたものを見せながら、立川保健師と中島医師による丁寧な報告会を実施したところ、反響が大きかった。神経科医、PT 等、また政府 3 省合同の障がい児中央委員会メンバーなどから賛同、連携を希望する意思表示を得た。保護者の会でも政策の提言、働きかけなどを行っていききたいという。

・保護者の会のリーダーたちが集まるミーティングに参加し、それぞれの地区での自主保育や子ども発達センター(療育センター)設立への取り組みなど活動が動き出していることが把握できた。

・保護者の会にお父さんクラブができていて、座位保持イスなどの製作に取り組んでいる。このメンバーを対象に車いすの付属品を作るためのセミナーを初めて実施した。今後、車いすの付属品のモンゴル化を図る最初の一步となった。

・1 年前に採寸したお子さんたちに身体に合った車いすや必要な付属品を渡すことができた。

課 題：保護者の会のリーダーが自主保育や調査に向けて動き始めようとしているが、それを継続したものにするための日常的な支援が必要である。

イ. 保護者の会招聘研修

モンゴルの障がい児保護者の会リーダーを招聘して、これまでの交流や昨年の実態調査などで把握していたニーズをもとに、障がいの早期発見、早期療育の仕組み、障がい児の保育、特別支援教育の現場などを視察する研修を練馬区を中心に実施した。

招聘期間：2015 年 6 月 15 日(月)～22 日(月)の 7 泊 8 日

助 成：立正佼成会一食平和基金

後 援：駐日モンゴル国大使館

招聘人数：10 人（うち 2 人は自費参加）

（6 人はウランバートル市内及び周辺から、4 人は地方から参加）

訪 問 先：練馬区関保健相談所(乳児 4 か月健診)

練馬区豊玉保健相談所（経過観察健診/中島医師による）

心身障害児総合医療療育センター、

都立北療育医療センター、
練馬春日町幼児教室（障害児学童保育および幼児集団保育）
都立北特別支援学校、桐ヶ丘特別支援学校施設併設学級、
石神井西小学校特別支援学級
十条のスワンベーカーリー、レストラン「街なかヴィ」
練馬区の障がい児保護者の団体との交流、他

- 通 訳：Sed Ayushav Bathishig(ヒシゲー)
- 協 力：東京都障害者総合スポーツセンター
- 成 果：・障がいの早期発見、早期療育のシステムを一日でも早く実現
したいという保護者の会の希望に的確にマッチした研修内容を
組むことができた。乳児健診、保健所の役割、療育センターの
役割など、実際に見ることで理解を得た。
・障がいのある乳幼児が集団保育のなかで発達している様子を
目の当たりにして、モンゴルにも取り入れたいという強い希望
を持って帰国した。
・保護者の会では日本での知見をもとに、帰国後、乳児健診や
子ども発達センターのあり方など、政府・関係機関への政策提
案を始めている。
- 課 題：今回初めての招へいで、保護者の会では自費でもいいのでと参
加を希望する声があったが、受け入れ可能人数に限度があり断
らざるをえなかった。

ウ. 療育専門家の訪問(2)

昨年立ち上がった療育専門家による草の根チームが、JICA 草の根技術協力
事業への事業提案をするために、5人が1週間現地を訪問し、事前打ち合わせ
を行った。この期間中、摂食指導を行い動画撮影を行った。帰国後、事業提案
書のまとめ作業を行った。

期 間：2015年9月20日(日)～27日(日)

助 成：JICA ホップ！ステップ！！国際協力
(2人分の渡航費および保険料)

訪 問 先：障がい児保護者の会、ゲゲーレン、サインナイズ、
第10治療保育幼稚園、国立リハビリテーションセンター、
JICA モンゴル事務所、障がい者自立生活センター

メンバー：諸石真理子(ニンジン運営委員、PT)

野口陽子(ニンジン理事、教育指導)

吉濱信恒(ニンジン副理事長、PT、教育指導)

梅村 浄(ニンジン運営委員、小児科医)

鈴木 茂(ニンジン運営委員、経理)

エ. 車いす支援

あらかじめ採寸したお子さんの身体に合う車いす・バギーなどを国内で探し、クッションなど付属品を誂えて届けた。今回、ベルトはモンゴルで保護者の会で製作した。2回で合計27台をモンゴルへ届けた。

専門家訪問時には、車いすの技術者2人が付属品を取り付け調整し21人に手渡し、来年に向けての採寸者41人を含め合計約70人の障がい児に対しサービスを提供した。

これまで日本で付属品を誂えて持参してきたが、今後車いすの本体以外のベルト、クッション等付属品については、モンゴルで作れるようにすることをめざし、現地でセミナーを実施した。

専門家：今清水勝人、春日宏

助成：公益財団法人日本国際協力財団

協力：心身障害児総合医療療育センター、株式会社ゼット本社、株式会社MIKI、株式会社エムジェイツアーズ、モンゴル航空
高橋生仁子さん、ポーギーさん(自立生活センター)

①	搬出日 台数 寄贈先 申請者	2014年11月20日(木) JICA 世界の笑顔プログラム H26-2 20台、松葉杖4組(2組は他の国へ)、おもちゃ15点 保護者の会(車いす20台) Sujatashand(障がい児おもちゃ15点) 中野陽隊員/PT(松葉杖2組) 鷺峰基絵隊員(専門分野：ソーシャル、配属先：ウランバートル、トルゴイト地域開発センター)
②	搬出日 台数 寄贈先	2015年4月27日(月) 療育専門家訪問団の手で 7台、付属品、高さ調整テーブル 保護者の会(車いす6台) ゲゲーレン(座位保持イス1台)

オ. 活動報告会

モンゴル支援事業の報告をチャリティコンサート『モンゴルの風』とあわせ実施した。ロビーにモンゴルでの活動写真パネルを展示し、ステージからも現場の状況を報告し、ニンジンの活動への理解を広めた。

開催日時：2015年7月3日(金) 19:00~21:00

会場：ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)

出演者：イフタタラガ(ホーミー&馬頭琴)

…バトエルデネ、ボルドエルデネ、ドリゴン
ブルマー(舞踊)

報告者：吉濱信恒(副理事長)、

来場者：152人

カ. 支援事業の運営

以上の事業を、日本においては事務局を中心として行い、モンゴルでは、現地調整窓口として通訳のヒシゲーさんおよびダワーさんに、車いす支援窓口を高橋生仁子さん(Sujatashand 代表)に依頼して事業を実施した。

自主保育の現場サポートをモンゴルに在住の堤由貴子さん(OT、青年海外協力隊・OG)に依頼して実施している。(2015年国際協力財団助成金による)

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの実施

ア. 『モンゴル交流ツアー～車いすを届ける旅』

6月にモンゴルからの招へい事業を実施することになり、取りやめた。

イ. 『北タイ焼畑の村スタディツアー』の実施

ラフ族の人びとを主として支援してきたルデラ(ラフ農村開発)では、森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みを行っている。この取り組みを見てあわせて村の生活文化を体験するスタディツアーを実施した。村ではアグロフォレストリーに村全体で取り組むために水道施設を作りたいとの希望があり、昨年秋にクラウドファンディングでその材料費の資金調達を行い、このツアーで村に手渡した。

実施時期：2015年2月11日(水)～18日(水) 参加者：13人

内 容：チェンマイからチェンライへ移動。山の村でホームステイ、村の生活体験、森復活の取り組み見学、水道施設材料費贈呈式、養豚講座、古着バザー開催、研修農場&子ども寮見学等

ウ. タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、さまざまなハンディを抱える人々、また同世代の青少年と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行った。

実施期間：2015年7月23日(木)～8月1日(土)

受入人数：順天高校より、生徒20人及び引率教員3人

内 容：<チェンライ>山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場での体験、子ども寮での交流、

<パヤオ>学校訪問、

<チェンマイ>HIV/AIDS関連の活動、ストリートチルドレン関連施設などの訪問、視察交流、象乗り

協力者：ダイエー・セイリ氏(チェンライ)、川口泰広氏(チェンマイ)

3. 啓発事業

(1) 公開フォーラム

モンゴルから招へいした障がい児保護者の会のリーダー10人の研修最終日に、研修でお世話になった練馬区で公開フォーラムを開催した。モンゴル側からは、障がい児の現在の状況と取り組みを伝えてもらい、日本側からは、練馬で障がい児を育てた親の会の経験を伝えていただき、交流する機会を設けた。

日 時：2015年6月20日(土)14:00～16:00

会 場：練馬区役所 20階 交流会場

助 成：立正佼成会一食平和基金

後 援：駐日モンゴル国大使館

報 告 者：障がい児保護者の会 セレンゲ代表

練馬の障がい児の親の会 藤井良子さん

協 力 者：はじめのいっぽ春日町、立川信夫さん

通訳協力：小泉裕一さん、ボロルさん、松本節子さん、野沢綾子さん

参 加 者：50人

4. 文化交流事業

モンゴル支援事業報告会をもってあてた。

5. 情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログによる発信に努め、情報の提供に努めた。

HP：http://www.ninjin-npo.org/

ブログ URL：http://blog.canpan.info/ninjin-jpn/

情報公開サイト、寄付サイトへの情報更新、イベント情報の発信を行った。

(日本財団 CANPAN、日本 NPO センターNPO ひろば)

(2) Eメールニュース(ニンジン・アップデート)の送信

6. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数	(2015年9月30日現在)
個人正会員	35人(36口)
団体正会員	3団体
個人賛助会員	37人(45口)
団体賛助会員	2団体

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催

日 時：2014年11月29日（土）

会 場：ワンデイオフィストーカー

（東京都渋谷区代々木1-38-7 川本ビル4F）

イ. 理事会の開催

期 日：10月30日、11月12日、11月27日

ウ. 運営委員会の開催

理事および会員有志からなる運営委員により運営委員会を7回開催し、事業の詳細を協議し実施した。

(3) ニンジン・サポーターズ倶楽部

イベント等に出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

ア. 順天高校スポンサードウォーク

団体プレゼン：4月14日 吉濱信恒、大友喜久江

強歩大会応援：5月2日(土) 吉濱信恒、岡田州代、大友喜久江

受取寄付額：162,952円

イ. 一乗祭り出展

期日：10月5日(日)

協力者：山川泉、宮崎節子、大友喜久江、槇ひさ恵

ウ. チャリティコンサート「モンゴルの風」